

年 度 評 価 シ ー ト

課名 中山間地振興課

施設の名称 藁科都市山村交流センター	指定管理者名 藁科交流センター運営委員会
1 履行状況	
(1) 目標達成状況 ア 5年後（令和9年度）の利用者数 目標値 86,000 人、実績値 68,663 人（令和7年度） 令和7年度時点での達成率 79.8% 【参考】令和元年度（コロナ前） 実績値 83,571 人 (2) 施設利用状況 ア 利用者数 68,663 人（前年度 64,201 人）（前年度比 107.0%） イ 入浴者数 12,381 人（前年度 12,364 人）（前年度比 100.1%） (3) 人員配置状況 管理責任者 1 名 職員 2 人 (4) 業務実施状況 静岡市都市山村交流センター条例第3条に規定する各種事業について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。 主な事業と参加者数は以下のとおり。 ア 主催講座（パソコン教室、体操教室など） 12 回 61 名 イ 交流講座（ミニ門松作り、そば打ちなど） 10 回 143 名 ウ イベント型講座（親子料理教室、収穫体験） 2 回 24 名 【検証・分析等】 令和7年度の来館者数は 68,663 人となり、前年度と比較して7%増加した。主な要因として、竹馬やオセロゲームの導入に加え、折り紙・絵本コーナーのレイアウトを見直すなど、子どもが利用しやすい環境づくりを進めたことが挙げられる。また、食育講座において、アニメキャラクターを活用した調理体験を共催事業として新たに実施したことにより、土日・祝日を中心に家族連れの利用が年間を通じて増加したものと考えられる。 さらに、館内エアコンの取替工事が完了し、利用環境が改善されたことも、利用者増加の一因となったと認められる。 【確認結果】 ○：協定書等の内容が適正に履行されている。	
2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）	
【具体的な意見・要望の内容と対応状況】 ① 意見等：キッズスペース等に子ども用遊具を増やしてほしい。 対応：子ども向けの竹馬やオセロゲームを購入し、利用環境の充実を図った。 ② 意見等：浴室内のカビが気になる。	

対応：清掃業者に対しカビ対策の徹底を依頼するとともに、職員によるカビ取り剤を使用した清掃を実施した。 【検証・分析等】 利用者からの意見・要望に対しては概ね適切な対応がとられており、良好な対応がなされている。 【確認結果】 ○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。	
3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価	
（１）利用者満足度調査 施設運営の参考とするため、利用者を対象にアンケート調査を実施した。 【調査結果】 回答者総数：127件、「満足」「やや満足」と回答した割合 ① 施設の満足度99.2%（前年度98.4%） ② 職員の応対99.2%（前年度100.0%） 【検証・分析等】 2項目の平均値で算出した満足度は99.2%（前年度99.2%）であり、良好な評価を得ている。 【確認結果】 ○：調査の結果が概ね良好である。 （２）市民アンケート 【確認結果】 －：未実施 （３）その他の調査 【確認結果】 －：未実施	
4 指定管理者の経理状況の評価	
【収支状況】 指定管理業務についての収支状況については、概ね適正に執行されている。 【検証・分析等】 収支状況は約170万円の赤字であった。これは令和6年度に実施予定だった風呂の目隠しの竹垣の取替工事を令和7年度に行ったことと、賞与の増額による人件費の上昇が主な要因で、赤字については前年度までの余剰金で計画的に補填していることから運営に支障はないと考える。また、会計帳簿類は整理されており、概ね適正な経理が行われている。 【確認結果】 ○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。	
5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）	
前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無
【検証・分析等】 指定管理業務全般については、業務仕様書及び事業計画書に基づき、概ね適正かつ良好に実施されている。	

事業運営においては、子ども向けの収穫体験や食育講座、18歳以上を対象とした蕎麦打ち・味噌作り講座などを年間を通じて実施し、農産物の生産や加工に対する理解促進に寄与している。また、パソコン講座やバランスボールを活用したエクササイズなど、健康志向をはじめとする多様な利用者ニーズに対応した講座にも積極的に取り組んでいる。

利用者アンケートの結果では、満足度が90%を超えており、施設の維持管理や接客サービスの向上に継続的に取り組んできた成果が表れているものと評価できる。

収支状況については、約170万円の赤字となった。主な要因は、令和6年度に実施予定であった修繕を令和7年度に実施したこと及び賞与の増額に伴う人件費の上昇によるものである。なお、この赤字については、前年度までの余剰金により計画的に補填していることから運営に支障はないと考える。

利用者数は前年度比7%増となっており、施設の特色を活かした事業展開や利用環境の向上に向けた取組の成果が認められる。一方で、5年後の目標利用者数86,000人の達成に向けては、さらなる利用促進策の充実が求められる。施設の特性を踏まえ、市街地住民が山村地域への興味・関心を高め、理解を深める契機となる魅力的な講座やイベントを継続的に企画・実施していくことが重要である。また、施設の魅力やイベント情報等を効果的かつ積極的に発信することで、新規利用者の獲得やリピーターの確保につなげていくことが期待される。

今後も、地元指定管理者としての強みを活かし、地元住民と市街地住民との交流促進や地域と連携したイベントの開催など、地域に根差した施設運営を継続することで、さらなる地域振興及び施設の活性化につながることを期待する。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。